

# 高次脳機能障害ネットワーク会議 in 仙台

入場  
無料



「伝えたい～NY大学Rusk研究所における通院プログラムの考え方と実践法～」

「前頭葉機能不全その先の戦略」著者

## 立神粧子講演会 (小澤富士夫とともに)

「見えない障害」といわれ、医療と福祉のはざままで、本人はもとよりご家族も周囲の理解を得られずに大変な困難を抱える「高次脳機能障害」について、昨年宮城県保健福祉事務所圏域ごとに支援のネットワークができました。

今回は特に広域の仙台圏域と仙台市を中心に、ニューヨーク大学のRusk研究所での通院プログラムを体験し、その過程を研究所の許可を得て本として出版された立神粧子さんのご主人の小澤富士夫さんをお招きしての講演会を開催いたします。

高次脳機能障害のあるご本人、ご家族、そして高次脳機能障害に関わる行政、医療、支援者の方々、高次脳機能障害に関心のあるどなたでもお申し込みいただけますので、ぜひご参加くださいますようお願い申し上げます。

とき

平成25年 3月23日(土) 13:30～15:50

■13:30～14:10 「どんまいネットについて」

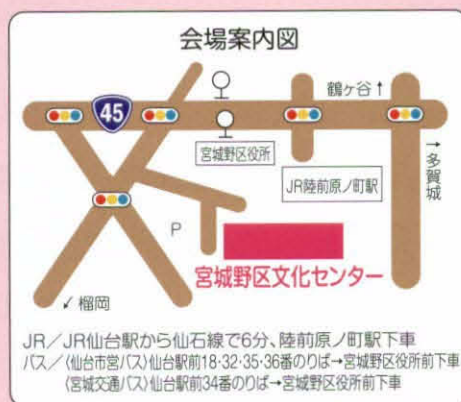
どんまいネットみやぎ代表 遠藤 実

■14:20～15:50 立神粧子・小澤富士夫ご夫妻講演

ところ

仙台市宮城野区文化センターパトナシアター

〒983-0842 仙台市宮城野区五輪2丁目12-70 Tel.022-257-1213



- 主催／宮城高次脳機能障害連絡協議会 どんまいネットみやぎ
- 共催／特定非営利活動法人 ほっぷの森、一般財団法人 アート・インクルージョン
- 後援／宮城県、仙台市

本事業は2012年度ファイザープログラム～心とからだに関する市民活動・市民研究支援による助成事業です。

参加ご希望の方は、裏面の申込書にご記入の上、FAXでお申し込みください。

## ♥ 立神粧子・小澤富士夫ご夫妻の紹介

立神粧子さんは、現在フェリス女学院大学、大学院で音楽の教授です。

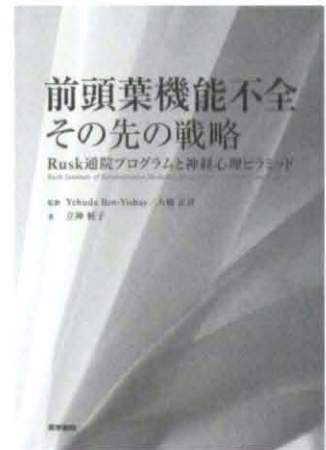
2001年11月、夫の小澤富士夫さんが解離性くも膜下出血で倒れ、今晚が山場と生命の危機を宣告されました。一命はとりとめました。高次脳機能障害が残りました。

2002年1～3月、神奈川県リハビリテーション病院での入院リハビリ訓練。「話をしても数分後に眠り込んでしまう特異な病態。ご夫妻のストレスと将来に対する不安を解消することは困難」と医師もあきらめる状態でした。

2004～05年、評価診断（2003年）を受けてニューヨーク大学Rusk研究所脳損傷通院プログラムに参加。ご夫妻で1年間機能回復訓練を受けました。小澤さんはここでも語り草になるほどの神経疲労と無気力症でしたが、「神経心理ピラミッド」に基づく理論の実践と訓練を通じて、「それまで悪夢を見ているような状態が劇的に改善され、衝撃的経験であった」というほどの成果がありました。

2005年帰国、医学書院発行の『総合リハビリテーション』誌に立神さんが体験記を発表して以来、医療や行政の関係者の間で話題になりました。Rusk研究所の訓練は世界的に有名なのですが、その内容はベールに閉ざされ表に出ることはありませんでした。立神さんはとくにスタッフからの信頼を得て、門外不出の訓練の様子の発表や資料の公表を許されました。訓練のすべては立神粧子著『前頭葉機能不全その先の戦略』（医学書院、2010年）に記載されています。

この本は、「勇気が愛と結びついたときに不屈の精神を生む、ということを示す真実の記録である」と、Ruskのスタッフからも絶賛されています。



●著書

前頭葉機能不全 その先の戦略  
—Rusk通院プログラムと神経心理ピラミッド—  
(医学書院、2010年)



宮城高次脳機能障害連絡協議会

どんまいネットみやぎとは



「どんまいネットみやぎ」は「宮城高次脳機能障害連絡協議会・どんまいネットみやぎ」の略称です。

平成13年に立ち上げられた国の高次脳機能障害支援モデル事業以来、宮城県では高次脳機能障害支援に積極的に取り組み、一定の成果が得られています。しかし、まだ見過ごされている障害者の発掘や、住み慣れた地域で支援が受けられる体制作りなど、更にレベルアップした支援策が求められています。

行政による支援活動は継続されますが、それを現場でスムーズに進めるために、ボランティアにより結成されたのが「どんまいネットみやぎ」という団体です。今まで高次脳機能障害支援活動に積極的に関わってきた専門家が結集しています。

実際の活動としては、まずは保健圏域ごとの、地域に根ざした支援チーム作りの手助け、そしてそれぞれのチーム間の情報を共有するための場作りです。個々の障害者の支援を行うのではなく、支援チームの支援を行うのです。

次の役割はつなぎ役です。高次脳機能障害は多彩な症状があるために、いろいろな支援組織が関わってきます。これらをゆるやかにつなぐ、すなわち、関わりのある医療・福祉・行政間の連携や、支援医療機関間、福祉組織・施設間の連携の橋渡し役となります。

せつかくの専門家集団ですから、モデル的な支援チームを作って、参考となるような評価法や支援策を提示していきます。

家族支援については、発想を変えて、支援される側から、ピアカウンセラーとして支援する側になれるように、ピアサポーター養成講座を実施しています。

我々の活動を通して、障害者・家族支援の輪が広がり、支援活動のレベルが上がることを期待しています。

## 高次脳機能障害ネットワーク会議 in 仙台 参加申込書 3/15(金) 締切

下記にご記入の上、FAXにてお申し込みください。 **FAX.022-797-8802**

おなまえ		E-mail	
ご住所	〒	電話番号	
団体名		ご本人	ご家族 医療・福祉関係者